

令和5年度 大阪商業大学高等学校 学校評価

1. めざす学校像

□目指す学校・基本領域

[1] 建学の理念に基づく学校づくり

- (1) 建学の理念「世に役立つ人物の養成」の本校における今日的意義を探り、アイデンティティを確立し、普遍的価値を持つ学校目標を定めた「スクールポリシー」の下、教育活動を推進していく。
- (2) 学校目標「スクールポリシー」に沿い、教育方針を策定し、生徒、保護者、地域へ周知し、浸透を図る。特に年度当初に明確に提示し、学校評価と連動させる。

[2] コースの充実

コースのコンセプトおよびコース目標を基に、各コース委員会を中心に、年次進行で進んでいく学習指導要領に沿いながら、教育活動を具体化し推進する。これをアドミッションポリシーとして広報する。また、2023年度から始まるコース別修学旅行の準備を進め実施する。

- (1) グローバル商大コースでは、3年目となったリメディアル教育を含む低学力者への対応、また、進路意識が高い生徒への進学対策「まな部」を継続するとともに、検証を行い、より良いプログラムとすることに取り組む。さらに、学習意欲が喚起された生徒が自主的に学習する環境整備として自習室の運用について、引き続き検討を重ねる。なお、自習室の環境管理については、外部委託を中心に考える。また、国際社会の一員としての視点を育むことができるような取り組みとして、将来的な語学研修や選択制での海外修学旅行を含めて引き続き検討する。
- (2) 文理進学コースでは、新学習指導要領の下で、大学合格実績で成果をあげている希望進路別選択を継続実施していく。学習量・学習時間増加を柱とし学習を定着させる指導に加え、学習への興味・関心を高め主体的に学び、探究心を養うプログラムを取り入れていく。前者については放課後授業、学期末授業、2次試験対策の補習の他、2022年度より開始した文理スタディキャンプなどの機会を設ける。後者では、内発的動機付けの醸成という観点から、OFIX英語体験などのイベントを行うとともに週1度放課後の探究活動サークルを6つ程度設定し活動する。生徒の興味・関心に沿う学習活動を設定することは転・退学率の低下策としても有効であると考えられる。教科担当者会議を定期的に開催し、常に到達度を意識する。
- (3) デザイン美術コースは、進学対策としてグローバル商大コースと協働した進路対策“まな部”を継続して実施する。これらはコースの目標の1つである美術系国公立大学への進学対策としても有効であると考えられる。また、デッサン力の育成という基本的な方針に沿って、2020年度から実施している放課後授業については、十分な効果が認められているため、さらに効果的な運営を目指す。また、これらを専願受験希望者増につながる施策として広報活動を行う。神戸芸術工科大学との連携授業については、大学と協議の上、コロナ以前の形式で実施を目指す。
- (4) スポーツ専修コースは、引き続き3クラス体制とする。コース生としての意識を高め、プライドを持つ指導を強化する。また、学習に取り組む姿勢を大切にす。新学習指導要領実施を契機に改変したスポーツ演習、総合的な探究の時間について、ルールを検証し整備する。同時に、新たに開始する「簿記」や「スポーツ医学検定」への対策について準備していく。また、社会的に問題となっているクラブの活動時間の問題や指導者の勤務等への対応策として顧問複数化の推進などを実施していく。中学校でのクラブ活動の外注化に伴い、本校で中学生へ練習環境を提供できるような活動を検討する。
- (5) 2023年度より実施するコース別修学旅行について、目的達成に向けてしっかりと企画し、成功させる。

2. 中間的目標

□学習指導構想

[1] 生徒の学習状況の把握と対応

- (1) 教科会および教科主任会を活性化し、各教科で定期考査後のデータ分析により学習状況の把握をし、以後の授業に反映する。1年間の授業を総括し、シラバスを見直し有効活用する。
- (2) 主体的で対話的な学びに関し研究を深め、グループワークなどの導入を図る。教務部主催の“主体的に学び、成績アップのための授業研究会”の活動を支援するとともに、その成果を周知することで、全体的な改革の一助とする。
- (3) 2019年度より実施している学力不振者への、入学後のリメディアル教育、定期考査前、考査後、長期休暇中の補習などによる学力補充の方策を検証し、継続して実施する。特にスポーツ専修コースでの低学力者問題について対応策を講じる。

[2] 教科教育活動の充実

- (1) 授業内容を精選し、1時間1時間の授業を大切にする姿勢を教員・生徒ともに養う。しっかりと知識を身に付けることを大前提として、さらに自ら考える力を養うための授業を進めていく。国語力・読解力を養うことをすべての教科を通して意識する。また、教科会で「思考コード」の考え方をを用いて考査の評価を行い、知識偏重から脱することを旨とする。
- (2) グローバル商大コースを中心に実用英語技能検定、簿記検定、ICTプロフィシエンシー検定（P検）など資格取得を前提とした指導体制を維持し、合格率向上を目指す。また、検定前補習を担当者任せではなく、学校全体の取り組みとするようシステム化する。
- (3) 導入済みのスタディサプリについては休暇時の課題、通常の授業の補完ツールとして活用することができているが、教科、教員に偏りが出ないように、より積極的に組織的な活用を進める。
- (4) 2023年度入学生から導入するタブレットの活用については、教科会を中心に方法論を検討してきたことを踏まえて実践し、検証していく。

□生活指導構想

[1] 基本的な生活習慣の確立、規範意識の育成

- (1) 理想とする「生徒像」を、行事、集会など機会がある毎に、生徒に伝え指導し続けることで、「予防的」な生徒指導を目指す。また、学校外での問題事象が増えてきていることを踏まえ、自尊感情を持ち、自己肯定感を高めることで、行動に責任を持てるような働きかけを行う。
- (2) 教職員全員で生活指導を行うという意識を徹底する。
- (3) 生活指導週間を有効に活用し、校則遵守を徹底し、頭髪、服装などの違反ゼロを目指す。
- (4) 目標値を掲げて取り組んでいる遅刻指導を継続的に実施するとともに、登下校指導を計画的に実施する。
- (5) 美化意識を高め、大掃除などを通じて校内美化に努める。
- (6) 交通安全指導や性教育、薬物乱用など危機管理につながる講座や携帯電話使用、スマホ依存教室など、社会人としてのマナーを養う講座を行う。

[2] 帰属意識の高揚

- (1) 生徒自治会を中心に、体育祭、文化祭、校内大会などの行事を、生徒の企画・運営で実施し、活性化させる。体育祭については、熱中症対策、雨天対策として、丸善インテックアリーナ大阪（大阪市中央体育館）での実施を予定している。
- (2) 学年や生徒自治会活動を中心にHR活動の充実を図る。
- (3) クラブ活動の充実を図るため、生徒自治会を中心にクラブ入部率を高める活動を行う。

[3] 特別支援教育の充実、不登校生対策の強化・改善

- (1) 保健委員会を中心に発達障害や不登校生について生徒理解を深めていく。さらに、1学期に身体的に問題を抱えた生徒の情報交換会を実施する。また、アンガーマネジメントやコーチングを行うといった手法について研究していく。
- (2) 不登校生徒に関する教務内規に沿って、不登校生の早期発見に注力し、サポートルームを活用しつつ対応する。
- (3) 特別支援教育理解のために啓発活動を行うとともに、ここ数年実施できていなかったが、特別支援教育コーディネーターを任命し、対象者の支援計画を立案できるような体制作りを進める。対象生徒の中学時の支援計画を参考に継続指導できるように中学校との連携を強化する。

□進路指導構想

[1] 進路意識の高揚と進路実績の向上

- (1) 3年間を通して計画的・体系的に進路指導を行い、適切な情報提供をすることで、進路に対する目的意識を形成するとともに学習への意欲を高める。特に1年次を大切に、総合的な探究の時間ともリンクして流れのあるものとする。
- (2) 文理進学コースの生徒、“まな部”で意欲的に取り組んでいる生徒を中心に、国公立大学および難関私立大学への進学意欲を高め、合格者数を増やす取り組みを行う。
- (3) 就職や公務員試験受験を含め多様な進路選択に対応できるような指導体制を構築する。
- (4) 大学入学共通テストについて分析を行い、該当教科、進路指導部、コース会議を中心に対応を進める。また、「情報Ⅰ」について、大学がどの程度受験の要件とするかなど、情報収集に努め適切に迅速に対応できるような体制をつくる。

[2] 系列大学との連携強化

- (1) 1年次より系列大学のリテラシーの場を設けるなど、3年間を通じて計画的な進路指導を行う。
- (2) デザイン美術コースを中心として、教員を招いての本校での授業や夏季休暇を利用した大学での授業等を通して神戸芸術工科大学との連携強化を図る。また、2022年度に実施できなかった保護者対象の芸工大見学ツアーなどを企画し、受験先として選択されるための一助とする。

□入試・渉外構想

[1] 広報活動の強化

- (1) 全教員で募集活動を行うという意識を持つ。
- (2) 東大阪市、八尾市、大阪市など地元を中心に、中学校への渉外活動を重点的に実施する。アスリート推薦での訪問を活かし、広範囲で本校を周知する活動を行う。
- (3) 中学校への出前授業については、積極的に引き受ける。
- (4) 学習塾への訪問回数を増加し、広報活動に努める。学習塾対象説明会のみならず、塾を訪問しての説明会を提案する。
- (5) 学校案内（パンフレット）作成にあたり、業者との連携をしっかりと取り、本校のアピールしたい内容をしっかりと伝えることのできるものをつくる。
- (6) 本校でのオープンスクール、入試説明会を全教職員で取り組み、生徒の参加や協力も得ながら内容をさらに充実する。Withコロナ禍での、説明会のノウハウを蓄積する。
- (7) 行事やクラブ活動など本校の情報を積極的に発信し、ホームページの更新頻度を高めていく。
- (8) 2022年度入試より導入したネット出願は継続して実施する。また、可否発表や入学手続きのWEB化について検討する。

[2] 専願受験者の確保

- (1) コースコンセプトを明確にし、コース目標を達成するための教育活動をアピールすることで専願志願者増を目指す。
- (2) スポーツ専修コース3クラス90名以上の確保を目指し、スカウティングに注力する。新たに整備された人工芝グラウンド、タータントラックなどを広報に活用する。
- (3) 充実した特待生制度について広報を強化するとともに、中学校へ丁寧に説明することで理解を得るようにする。
- (4) 充実した芸術Ⅰ教室、放課後デッサン指導や学習指導、また、アドバンテージである神戸芸術工科大学との連携を強く打ち出すことでデザイン美術コースへの専願志望者を増加させる。また、デッサン講習会へ参加し、優秀な結果を出した生徒の所属する中学校へ本校美術教員が訪問するなどの直接的なアプローチを行う。

[3] 女子生徒の確保

- (1) 志願者の40%、入学者の33%を目標に取り組む。
- (2) 変更した体育授業時のジャージや、サンタリーボックスを設置したトイレ、什器の入れ替えなどを行い明るい雰囲気となった食堂など、近年改善してきた点をアピールしていく。また、さらに女子生徒に魅力的な学校を目指して、明るいイメージの校舎・教室を目指して、改善に向けて努力していく。
- (3) 陸上競技部、柔道部、剣道部での女子生徒に対する募集活動を強化するとともに、スポーツ専修コースではないが、空手道同好会での女子生徒の勧誘、ダンス部の活動の広報を行っていく。これらのクラブについては、サポートできる女性スタッフを検討する。

□教員の研究・研修構想

[1] 教員の教育力向上

- (1) 時間講師も含めて全教員が行う公開授業（研究授業）を継続実施する。見学した教員の事後アンケートを教科担当者にフィードバックすることで、授業内容・方法の向上を図る。
- (2) 校内研修会を実施し、教員の教育力向上を図るとともに意識統一を行う。教務部主催の放課後ミニ勉強会や常勤講師対象研修会は継続して実施する。
- (3) 外部研究会への積極的な参加を促し、参加後に研修会や教科会で報告し、全体に情報が共有できるようにする。
- (4) 学校評価や授業評価の項目をスクールポリシーと連動できるように見直し、実施する。結果を基に授業を分析し、授業改善の指針とする。
- (5) 教科会を充実し、教科内での意見交換や止揚の場、教科教育力向上の場として活用する。

[2] 教員組織の活性化

- (1) 職場の雰囲気は良く、教育目標を共通認識し、教員相互で助け合える組織となりつつあるので、さらに安心して働ける環境づくりを行う。会議等の進め方について研修を行う。
- (2) 学校施策や行事を責任の所在を明確にした上で企画・運営していく体制づくりを行い、運営委員会、校務分掌会議、コース運営会議、学年会、教科会などが、機能的に働くようにする。また、目的に沿った総括を行う。

□その他

[1] 保護者との連携強化

- (1) PTA活動へ教員全体で参画・協力する。
- (2) 家庭で学業成績や学校生活の様子を把握してもらうために、1学期および2学期の年2回、クラスで三者懇談を実施し、1学期および2学期中間考査後に結果を郵送などで報告する。また、保護者対象に公開授業を実施し、学校・授業の様子を見ていただく機会とする。
- (3) さくら連絡網を家庭との連絡の手段として活用する。特に学校からの一方的な連絡に留まらず、欠席連絡やアンケート回収など保護者からの連絡ツールとしても有効利用する。
- (4) 就学支援金および授業料支援補助金と授業料との相殺により、家庭の負担軽減に努める。

[2] 地域との連携

- (1) 新型コロナウイルス感染状況にもよるが、クラブやコースを中心に東大阪市民ふれあい祭りなど地域行事へ参加・協力をする。また、文化祭など本校行事を近隣へ案内し、本校の様子を知っていただく一助とする。
- (2) 第三者評価委員会を設けるに当たり、近隣自治会などへ協力依頼を行う。

[3] 大阪商業大学附属幼稚園との連携

- (1) 本校デザイン美術コースの協力授業を継続して行い、連携を図っていく。
- (2) 運動会、避難訓練、夕涼み会など幼稚園行事へ協力する。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析[令和5年12月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>□学校生活全般</p> <p>○「学校の雰囲気がよい」 肯定的回答(生徒 75%、保護者 85%、教員 62%) 参考) 昨年度 (77) (89) (66)</p> <p>○「生徒はクラスが楽しいと感じている」 肯定的回答(生徒 89%、保護者 86%、教員 84%) 参考) 昨年度 (87) (86) (89)</p> <p>【分析】</p> <p>「学校の雰囲気について」の質問に対して、保護者は約 85%が肯定的な回答である。これは昨年度と大きな変化はない。生徒の肯定的な回答も 75%であり昨年度と大きな変化はない。その中で気になるのは、教員の否定的な回答が昨年から 4 ポイント増え、一昨年から 17 ポイントも増えている点である。教員が危惧している点がどこにあるのか検証し、改善につなげなければならない。</p> <p>「あいさつに溢れる学校」については、生徒ならびに保護者は、70%を超える肯定的意見である。一方、教員は約 50%が否定的な回答となっている。教員の否定的な回答は昨年度より 2 ポイント下がっているが、この意識の差が何から生じているものかは早急に検証していく必要がある。クラブ員を中心とした校内での挨拶習慣がある程度定着していると評価できる一方、生徒からの一方的な取り組みだけでなく、教職員から挨拶励行を継続することが求められるのではないだろうか。</p> <p>「クラス活動」については、各学年ともに肯定的な回答が約 85%以上出ていることは評価できる。2 年続けて同じような高い水準を保っており、各学級担任の日頃の教育活動の賜物である。今後も生徒と学級担任が協力して、自らのクラスの雰囲気を良好なものにし続けなければならない。</p> <p>「スクールミッション・コースポリシー」については、今年度から加えた質問である。どちらの質問も、生徒、保護者は肯定的意見が 80%を超えるが、教員の肯定的意見は 50%台である。生徒または保護者に、学校やコースの方針が一定程度浸透していると教員側が認識を持ってもらいたいのではないだろうか。</p> <p>「資格取得の多様性」については、生徒は肯定的回答が 80%を超え、昨年同様の結果である。特に 2 年生は 90%を超えている。グローバル商大コースやスポーツ専修コースを中心に、生徒の満足度は高い。これに対して、保護者と教員の肯定的意見は 60%台となっており、資格の種類や、受験する級などに改善の余地があるようである。</p> <p>「教員の教育熱心さ」については、生徒、保護者ともに肯定的意見が 80%を超え、教員の肯定的回答は、70%程度にとどまっている。これは昨年と全く同じ傾向である。ICT 授業、観点別評価等、新しい取り組みが始まっているが、教員の日々の取り組みが一定程度評価されていると言える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつができる生徒が多く、学校の雰囲気をよくしている。 ・「誰に対してもあいさつができる」とは言い難く、教員には否定的な意見も多い。 ・学校の雰囲気やクラス活動に 80%前後の肯定的回答であれば、十分に機能を果たしていると言える。 ・資格の取得は、生徒達の大きなモチベーションになっている。 ・コースポリシーは、生徒達はそれなりに理解している。
<p>□学習に関して</p> <p>○「先生の授業はわかりやすい」 肯定的回答(生徒 87%、保護者 84%、教員 77%) 参考) 昨年度 (85) (87) (80)</p> <p>○「(生徒は) 意欲的に学習に取り組んでいる」 肯定的回答(生徒 87%、保護者 72%、教員 36%) 参考) 昨年度 (79) (76) (39)</p> <p>【分析】</p> <p>「授業のわかりやすさ」について、生徒間で各学年ともに約 80%台後半の肯定的な回答となった。昨年度とほぼ変わりはない。保護者においてもほぼ同じような結果となっている。教員に関しては、2 年連続で肯定的回答が減った。ICT 授業への変化を求められ、試行錯誤の状態が続いているが、自戒の念が数字に表れているのかもしれない。今後も公開授業を利用して、教員同士の学び合いを継続する必要がある。</p> <p>「授業への意欲的な取り組み」については、例年通り、生徒・保護者と比較して、教員の意見が厳しいものとなっている。教員は、もっと主体的に学ぶ姿勢を身に付けてほしいと願っており、生徒・保護者との差が大きい結果となった。</p> <p>「ベル着を守っている」について、例年通り生徒は概ね肯定的な回答である。教員の肯定的回答は、直近 3 年で最も高く、「ベル着」が学校全体で定着しつつあると言える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT を使う先生もいれば、全く使わない先生もいるが、先生方はわかりやすい授業をしてくれている。 ・ICT は過渡期にあり、教員は試行錯誤をしながら授業の準備をしている。 ・研修会等で、ICT について研鑽を重ねている。

自己評価アンケートの結果と分析[令和5年12月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>□進路指導に関して</p> <p>○「授業・模擬試験が進路に対応している」 肯定的回答(生徒 87%、保護者 83%、教員 67%) 参考) 昨年度 (84) (85) (55)</p> <p>○「進路の情報は適切に提供されている」 肯定的回答(生徒 91%、保護者 87%、教員 82%) 参考) 昨年度 (88) (89) (85)</p> <p>【分析】</p> <p>「授業・模擬試験の進路への対応」について、生徒・保護者の肯定的回答は80%を超えるものとなっており、教員も昨年、一昨年より肯定的意見は多くなっている。各コース、進路選択が異なる状況であるが、授業内容が進路選択へ直結できるよう、さらに工夫が必要である。</p> <p>「進路情報の提供」については、進路指導部を中心に、進路ガイダンスや総合的な探究の時間で、将来を考えさせる機会を提供しており、概ね肯定的な回答を得ている。特に3年生は2年連続で90%の肯定的回答を得ている。引き続き、生徒の進路選択に役立つ進路情報の提供に工夫を講じていかなければならない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コースによって、進路に対する意識はかなり異なると思う。 ・生徒の将来に対する指導について、生徒、保護者の肯定的な回答が8割を超えているということは先生方の熱心な指導の結果であると思う。 ・文理進学コースは授業が大学進学に対応していて当然だが、グローバル商大コースは対応していない。グローバル商大コースでも共通テストに対応できたらいいと思う。
<p>□生活指導</p> <p>○「学校の規則は妥当か」 肯定的回答(生徒 69%、保護者 85%、教員 70%) 参考) 昨年度 (64) (85) (74)</p> <p>○「学校の規則を守っているか」 肯定的回答(生徒 94%、保護者 79%、教員 30%) 参考) 昨年度 (74) (87) (26)</p> <p>○「生徒は生活指導について納得している」 肯定的回答(生徒 73%、保護者 79%、教員 37%) 参考) 昨年度 (67) (84) (44)</p> <p>○「教員は悩みを親身になって聞いてくれる」 肯定的回答(生徒 88%、保護者 85%、教員 91%) 参考) 昨年度 (82) (84) (93)</p> <p>【分析】</p> <p>「学校の規則の妥当性」については、保護者、教員、生徒の順番で肯定的意見が減っていく傾向は今年も変わらない。保護者の協力が得られやすい環境は整いつつあると言える。</p> <p>「生徒が学校の規則を守っている」は例年と同じく、肯定的意見における生徒、保護者の数値と教員の数値に大きな差が生じている。教員の肯定的回答が昨年より微増しているがまだ30%である。教員は、どうしても規則を守っていない生徒に目が行きがちであるため、このような結果になってしまうが、来年もわずかでもいいので、肯定的意見が増えるように継続的な指導が必要である。</p> <p>「生徒は生活指導に納得している」についても、肯定的意見が生徒、保護者の数値と教員の数値に大きな差が生じている。校則、マナーを納得して守らせる、という指導を継続して行わなければならない。</p> <p>「教員は悩みを親身になって聞いてくれる」は三者(生徒・保護者・教員)ともに例年通り、肯定的回答が大部分を占めた。学校方針でもある、日ごろのきめ細やかな教育活動の成果であると評価できる。生徒一人一人に丁寧に対応することは、本校が培ってきた最も重要視すべき教育活動であり、今後も高い評価が得られるようにしなければならない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・冬の登下校時のダウンジャケットの着用を認めてほしい。 ・校則を守れていないのは一部の生徒だと思う。 ・学校の規則の妥当性は非常に難しい課題かと思う。今後の検討課題として捉えていただいても良いのではないかと思う。 ・「生徒は学校の規則を守っている」について、多くの生徒が守っているつもりだが、教員とのギャップが大きい。 ・生徒会を中心に、生徒の意見を聞きだし、変えていけるころがあれば変えていきたい。
<p>□設備について</p> <p>○「校内の施設・設備はよく整備されている」 肯定的回答(生徒 64%、保護者 72%、教員 25%) 参考) 昨年度 (58) (72) (23)</p> <p>【分析】</p> <p>「校内施設設備」については、例年通り否定的回答が他の項目よりも多い。しかし、少しずつではあるが、肯定的意見が増えてきている。wi-fi環境の整備、ICT教室、人工芝グラウンドの新設などが影響しているかもしれない。今後も継続して教育環境の整備を実現する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設全体が古くなってきている。
<p>□その他</p> <p>○「学校行事は楽しく充実している」 肯定的回答(生徒 88%、保護者 90%、教員 79%) 参考) 昨年度 (84) (87) (79)</p> <p>○「部活動は活発で充実している」 肯定的回答(生徒 85%、保護者 92%、教員 78%) 参考) 昨年度 (86) (86) (82)</p> <p>○「入学して(させて)よかった」 肯定的回答(生徒 77%、保護者 87%、教員 77%) 参考) 昨年度 (77) (89) (81)</p> <p>【分析】</p> <p>「学校行事」について、全学年で肯定的回答が90%に迫る水準である。体育祭が体育館(Asueアリーナ)で実施できたことや、文化祭が感染症の影響を受けずに、以前の形態で実施できたことが要因として挙げられる。</p> <p>「部活動」についても、肯定的回答が多数を占めている。土曜日の活動がコース毎で異なるため、運動クラブの活動計画に工夫が必要となっているが、目立った否定的意見はない。文化部の活動も以前より盛んになっていることも肯定的意見の多さの要因として挙げられる。</p> <p>「入学して(させて)よかった」については、概ね肯定的意見が多数を占めている。学年を追うご</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭が通常通りの形式で開催できたのは良かった。 ・体育祭は、体育館で実施できて、暑さ対策としては良かったが、保護者席からアリーナまで距離があり、生徒の表情が見えづらかった。 ・学校行事は、生徒自治会の生徒、教員を中心にして、成功を収めたと言ってよい。 ・部活動がさかんだが、やはりグローバル商大コースの生徒は運動クラブには参加しづらい。 ・生徒が「入学して良かった」と思っていない割合の「5人に一人」は誤差の範囲(許容範囲)と言って良いだろう。

とに」肯定的意見が多くなり、生徒が本校教員の考えを理解していることが窺える。しかし、5人に1人程度が、「入学して良かった」とは思っておらず、この結果を本校教員は謙虚に受け止める必要がある。	
□情報共有・通学マナーについて ○「さくら連絡網などによって、学校の情報は適切に伝えられている」 肯定的回答(生徒 92%、保護者 95%、教員 88%) 参考) 昨年度 (93) (97) (94) ○「自転車や歩行の交通ルールを守って登下校している」 肯定的回答(生徒 95%、保護者 94%、教員 25%) 参考) 昨年度 (80) (95) (19) 【分析】 「さくら連絡網」については、生徒、保護者、教員すべてにおいて約90%前後が肯定的回答となった。昨年も高い水準であり、家庭と学校をつなぐツールとして認知されてきたと思われる。「通学マナー」について、生徒と保護者は肯定的回答が圧倒的に多く、その数値は90%を超える。一方、教員は圧倒的に否定的回答が多く、意識が乖離している。今年度も地域の方から本校生の通学マナーの悪さについてのご連絡が何度となく入った。一部の生徒とはいえ、マナーの悪い生徒がまだ目立っており、継続的に啓発、指導が必要である。	・「さくら連絡網」は連絡ツールとして機能していると思う。 ・通学マナーの悪さは一部の生徒が目立っている。

3. 本年度の取組内容および自己評価

中間的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	
				◎-評価 80%以上 ○-評価 60% △-評価 40% ×-評価 20%以下	
□学 習 指 導 構 想	[1] 生徒の学習状況の把握と対応 (1) 教科会および教科主任会を活性化し、各教科で定期考査後のデータ分析により学習状況の把握をし、以後の授業に反映する。1年間の授業を総括し、シラバスを見直し有効活用する。 (2) 主体的で対話的な学びに関し研究を深め、グループワークなどの導入を図る。教務部主催の“主体的に学び、成績アップのための授業研究会”の活動を支援するとともに、その成果を周知することで、全体的な改革の一助とする。 (3) 2019年度より実施している学力不振者への、入学後のリメディアル教育、定期考査前、考査後、長期休暇中の補習などによる学力補充の方策を検証し、継続して実施する。特にスポーツ専修コースでの低学力者問題について対応策を講じる。 [2] 教科教育活動の充実 (1) 授業内容を精選し、1時間1時間の授業を大切にす姿勢を教員・生徒ともに養う。しっかりと知識を身に付けることを大前提として、さらに自ら考える力を養うための授業を進めていく。国語力・読解力を養うことをすべての教科を通して意識する。また、教科会で「思考コード」の考え方をを用いて考査の評価を行い、知識偏重から脱することを目指す。 (2) グローバル商大コースを中心に実用英語技能検定、簿記検定、ICTプロフィシエンシー検定(P検)など資格取得を前提とした指導体制を維持し、合格率向上を目指す。また、検定前補習を担当者任せではなく、学校全体の取り組みとするようシステム化する。 (3) 導入済みのスタディサプリについては休暇時の課題、通常の授業の補充ツールとして活用することができているが、教科、教	・各教科定期試験などのデータ分析 ・学力不振者への学期末補習実施 ・学力テストデータを基にしたリメディアル教育の実施 ・業者学力テストの有効利用 ・ベル即授業→50分間授業提供の徹底 ・各教科での「思考コード」の考え方をを用いての考査の評価を実施 ・授業態度調査の実施 ・各種検定合格率向上およびそれに向けての学校全体としての取り組み	各教科定期試験データ分析を教務部中心に行った。教科会議においても議題とし、適切な成績評価につながるようした。	◎	
			学力不振者に対して、リメディアル教育および各学期末に欠点者補習を行ったが、一部で怠学もあり、今後見直しが必要である。	○	
			学力テストの事後指導をスタディサプリを活用して行った。しかし、事後指導の検証には至っていない点と、担任の負担が重くなっている点については対策を考えなければならない。	△	
			ベル着の習慣がある程度定着しつつあるが、生徒と教員の認識には開きがあるので、今後も啓発が必要である。(肯定的意見 生徒:93%、教員:53%)	○	
			問題作成時に思考力を問う問題を出題することについては概ね浸透してきた。今後さらに研鑽を重ね、研究を深める必要がある。	○	
			授業への参加態度の生徒の個人差を把握するため、授業態度調査を行った。	○	
			◆◆各検定試験合格数について目標設定・評価◆◆		
			英検準2級→受験者数の55%合格	・準2級合格→34名<受験261名> ---合格率13%(昨年24%) ・2級合格→16名<受験143名> ---合格率11%(昨年11%)	×
			全商簿記検定2級→合格	・2級→合格54名<受験359名> ---合格率15%(昨年29%)	×
			ICTプロフィシエンシー検定(P検)の受験→3級合格	P検→3級合格51名<受験60名> ---合格率85%(昨年60%) →準2級合格57名<受験119名> ---合格率48%(昨年53%)	○
※合格数や合格率が昨年度並、もしくは上昇した検定は評価できる。 P検は3年生のモチベーションの維持が課題である。全商簿記2級は隔年減少もあるが、更なる合格率の上昇を目標に研鑽が必要である。					

<p>員に偏りが出ないように、より積極的に組織的な活用を進める。</p> <p>(4) 2023 年度入学生から導入するタブレットの活用については、教科会を中心に方法論を検討してきたことを踏まえて実践し、検証していく。</p>	<p>・「まな部」の実施</p>	<p>「まな部」は、グローバル商大コース、デザイン美術コースの進学補習の位置づけとして実施</p>	<p>3年生 国語 9名 英語 10名 (昨年：国語 12名、英語 8名) 2年生 国語 7名、英語 11名 (昨年：国語 16名、英語 12名) 参加人数は昨年より減少しているが、参加生徒に対して、最後まで受験指導ができた。</p>	<p>△</p>
<p>□ 生活指導構想</p> <p>[1] 基本的な生活習慣の確立、規範意識の育成 (1) 理想とする「生徒像」を、行事、集会など機会がある毎に、生徒に伝え指導し続けることで、「予防的」な生徒指導を目指す。また、学校外での問題事象が増えてきていることを踏まえ、自尊感情を持ち、自己肯定感を高めることで、行動に責任を持てるような働きかけを行う。 (2) 教職員全員で生活指導を行うという意識を徹底する。 (3) 生活指導週間を有効に活用し、校則遵守を徹底し、頭髪、服装などの違反ゼロを目指す。 (4) 目標値を掲げて取り組んでいる遅刻指導を継続的に実施するとともに、登下校指導を計画的に実施する。 (5) 美化意識を高め、大掃除などを通じて校内美化に努める。 (6) 交通安全指導や性教育、薬物乱用など危機管理につながる講座や携帯電話使用、スマホ依存教室など、社会人としてのマナーを養う講座を行う。</p> <p>[2] 帰属意識の高揚 (1) 生徒自治会を中心に、体育祭、文化祭、校内大会などの行事を、生徒の企画・運営で実施し、活性化する。体育祭については、熱中症対策、雨天対策として、丸善インテックアリーナ大阪（大阪市中央体育館）での実施を予定している。 (2) 学年や生徒自治会活動を中心にHR活動の充実を図る。 (3) クラブ活動の充実を図るため、生徒自治会を中心にクラブ入部率を高める活動を行う。</p> <p>[3] 特別支援教育の充実、不登校生対策の強化・改善 (1) 保健委員会を中心に発達障害や不登校生について生徒理解を深めていく。さらに、1学期に身体的に問題を抱えた生徒の情報交換会を実施する。また、アンガーマネジメントやコーチングを行うといった手法について研究していく。 (2) 不登校生徒に関する教務内規に沿って、不登校生の早期発見に注力し、サポートルームを活用しつつ対応する。 (3) 特別支援教育理解のために啓発活動を行うとともに、ここ数年実施できていなかったが、特別支援教育コーディネーターを任命し、対象者の支援計画を立案できるような体制作りを進める。対象生徒の中学時の支援計画を参考に継続指導できるように中学校との連携を強化する。</p>	<p>・通常の登下校指導だけでなく、教職員全員で生活指導週間において登校指導を行う。</p> <p>・学年集会、コース集会などを通じて、マナー意識の徹底などを行う。</p> <p>・生徒の人権などを配慮した丁寧な指導</p> <p>・年間遅刻数目標を 4000 名以下とし、生徒指導部だけでなく、学年でも細やかな遅刻指導を行い、遅刻数減少への取り組みを行う。</p> <p>・生徒対象マナーや性教育などの講座の開催</p> <p>・スマホのマナー(朝礼～終礼時までの使用禁止、歩きスマホ、音だし等の禁止)に対して指導を行う。</p> <p>・生徒自治会を中心とした、各種学校行事への取り組み</p> <p>・生徒自治会オリエンテーションでのクラブ加入の啓発</p> <p>・不登校生徒に関する内規運用</p>	<p>教員全員による登校指導の実施</p> <p>学年集会、コース集会の実施</p> <p>学校全体の年間遅刻数を 4000 名以下にする</p> <p>交通安全講習会・性教育の実施</p> <p>スマホマナーの徹底</p> <p>各種学校行事への取り組み</p> <p>課外活動の実績</p> <p>不登校生徒認定に関して新ルールの定着</p> <p>カウンセリング、不登校対策について</p>	<p>全教員による対人マナーや校則を遵守させるよう啓発に努めた。一定の効果は出ているが、服装指導はまだ道半ばである。</p> <p>今年度は学年集会、コース集会など大人数が集合しての集会を行うことができ、生徒への啓発活動は一定行うことができた。</p> <p>年間遅刻数 5908 名<昨年 4987 名・一昨年 4078 名>で目標数 4000 名以下を達成することができなかった。ここ数年、遅刻は増加傾向にある。各学年、クラス担任はきめ細かい指導を続けているが、悪戦苦闘をしている。</p> <p>交通安全講習会は1学年を対象に、性教育は各学年で実施した。</p> <p>普段より啓発活動を行っているにも関わらず、指導対象者が出てしまったことは残念である。</p> <p>各種行事を、コロナ前の形態で開催できた。特に、体育祭は外部の体育館を借りて初めて実施した。生徒自治会を中心に、生徒が積極的に取り組めたと評価できる。学校行事への満足度も上がっている。(生徒肯定的回答 今年度 88% 昨年度 84% 一昨年度 75%)</p> <p>柔道部・空手道部・ボクシング部の全国大会での活躍、陸上競技部・バレーボール部の近畿大会での活躍があった。</p> <p>不登校申請に必要な書類の提出から不登校委員会までの流れが定着し、申請から認定までがスムーズになった。</p> <p>カウンセリング相談者数延べ人数は、146名(昨年度 168名、一昨年度 214名)で、対象生徒数は 40名、対象保護者数は 14名(昨年度対象生徒 49名、対象保護者数 7名)であった。件数としては減少傾向にあるものの、まだまだ不安定な生徒が多くいると思われる。</p>	<p>△</p> <p>◎</p> <p>×</p> <p>○</p> <p>×</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>○</p>

中間的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 〔 ◎・評価 80%以上 ○・評価 60% △・評価 40% ×・評価 20%以下 〕	
□ 進路指導 構想	[1] 進路意識の高揚と進路実績の向上 (1) 3年間を通して計画的・体系的に進路指導を行い、適切な情報提供をすることで、進路に対する目的意識を形成するとともに学習への意欲を高める。特に1年次を大切に、総合的な探究の時間ともリンクして流れのあるものとする。 (2) 文理進学コースの生徒、“まな部”で意欲的に取り組んでいる生徒を中心に、国公立大学および難関私立大学への進学意欲を高め、合格者数を増やす取り組みを行う。 (3) 就職や公務員試験受験を含め多様な進路選択に対応できるような指導体制を構築する。 (4) 大学入学共通テストについて分析を行い、該当教科、進路指導部、コース会議を中心に対応を進める。また、「情報Ⅰ」について、大学がどの程度受験の要件とするかなど、情報収集に努め適切に迅速に対応できるような体制をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとの年間進路学習の立案 	学年ごとに目標に応じた進路学習の計画・実施	各学年での進路ガイダンスを実施。「スタディサプリ」を用いた進路希望調査を実施。進路指導部の取り組みと、各コース独自の取り組みの融合が課題である。	○
		<ul style="list-style-type: none"> ・文理進学コースをはじめとする進路実績の向上、大学入学共通テスト受験奨励 	◆進路実績向上への取り組み◆ 大学入学共通テストへの受験奨励	試験受験者数は22名(昨年度:30名)。4名が国公立大学に合格した。 ※難関私大(関関同立産近甲龍)への合格数は53名であった。	△
		<ul style="list-style-type: none"> ・『大学入学共通テスト』に対する研究、情報提供 	大学入学共通テストに対する研究	本校受験生の平均点は昨年より上がっているが、全国平均とはまだ差があり、さらに新テストの研究が必要である(本校平均:103.4 昨年度本校平均:102.4 全国平均118.7)。	○
		<ul style="list-style-type: none"> ・文理進学コース3学期特別授業の実施 	文理進学コース3学期特別授業の実施	学年末試験に追われることなく、大学入試に集中できる環境が整いつつある。	○
		<ul style="list-style-type: none"> ・文理スタディキャンプの実施 	文理スタディキャンプ(BSC)の実施	昨年度の反省を生かし、帯同する教員を増員したおかげで、細かい指導ができた。	◎
		<ul style="list-style-type: none"> ・文理進学コースの内発的動機づけへの取り組みの検討 	文理シーキング・アクティビティ(BSA)の実施に向けて	今年度から始まった新たな取り組みで、開始時は教員も困惑したが、徐々に軌道に乗り出した。	○
		<ul style="list-style-type: none"> ・多様な進路に対する指導体制構築 ・系列大学(大阪商業大学/神戸芸術工科大学)との連携強化 	系列大学への進学について 系列大学(大阪商業大学/神戸芸術工科大学)との連携強化	大阪商業大学 54名(16.5%) 昨年 124名(26.4%) 神戸芸術工科大学 4名(1.2%) 昨年 6名(1.2%) 神戸芸術工科大学に関しては、大きな変化はなかったが、大阪商業大学は半数以下の入学者となった。他大学に進学する生徒によるアンケートでは「学びの内容により魅力を感じた」と答える生徒が多く、高大がさらに連携を詰める必要がある。	△
			就職希望者について	求人者数も回復傾向にあり、就職希望者14名が全員内定をもらうことができた。タブレットを用いながら、今後もより適切な対応を心がけていく必要がある。	◎

中間的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 〔 ◎・評価 80%以上 ○・評価 60% △・評価 40% ×・評価 20%以下 〕
□ 入試 ・ 渉外 構想	<p>[1] 広報活動の強化 (1) 全教員で募集活動を行うという意識を持つ。 (2) 東大阪市、八尾市、大阪市など地元を中心に、中学校への渉外活動を重点的に実施する。アスリート推薦での訪問を活かし、広範囲で本校を周知する活動を行う。 (3) 中学校への出前授業については、積極的に引き受ける。 (4) 学習塾への訪問回数を増加し、広報活動に努める。学習塾対象説明会のみならず、塾を訪問しての説明会を提案する。 (5) 学校案内（パンフレット）作成にあたり、業者との連携をしっかりと取り、本校のアピールしたい内容をしっかりと伝えることのできるものをつくる。 (6) 本校でのオープンスクール、入試説明会を全教職員で取り組み、生徒の参加や協力も得ながら内容をさらに充実する。Withコロナ禍での、説明会のノウハウを蓄積する。 (7) 行事やクラブ活動など本校の情報を積極的に発信し、ホームページの更新頻度を高めていく。 (8) 2022年度入試より導入したネット出願は継続して実施する。また、可否発表や入学手続きのWEB化について検討する。</p> <p>[2] 専願受験者の確保 (1) コースコンセプトを明確にし、コース目標を達成するための教育活動をアピールすることで専願志願者増を目指す。 (2) スポーツ専修コース3クラス90名以上の確保を目指し、スカウティングに注力する。新たに整備された人工芝グラウンド、タータントラックなどを広報に活用する。 (3) 充実した特待生制度について広報を強化するとともに、中学校へ丁寧に説明することで理解を得るようにする。 (4) 充実した芸術I教室、放課後デッサン指導や学習指導、また、アドバンテージである神戸芸術工科大学との連携を強く打ち出すことでデザイン美術コースへの専願志願者を増加させる。また、デッサン講習会へ参加し、優秀な結果を出した生徒の所属する中学校へ本校美術教員が訪問するなどの直接的なアプローチを行う。</p> <p>[3] 女子生徒の確保 (1) 志願者の40%、入学者の33%を目標に取り組む。 (2) 変更した体育授業時のジャージや、サニタリーボックスを設置したトイレ、什器の入れ替えなどを行い明るい雰囲気となった食堂など、近年改善してきた点をアピールしていく。また、さらに女子生徒に魅力的な学校を目指して、明るいイメージの校舎・教室を目指して、改善に向けて努力していく。 (3) 陸上競技部、柔道部、剣道部での女子生徒に対する募集活動を強化するとともに、スポーツ専修コースではないが、空手道同好会での女子生徒の勧誘、ダンス部の活動の広報を行っていく。これらのクラブについては、サポートできる女性スタッフを検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基盤とする東大阪市、八尾市、大阪市、柏原市、生駒市、奈良市の中学校から安定した入学生徒数を確保する。そのため入試対策委員会と企画広報部が連携し、効果アップを図る。オープンスクールや入試説明会は全教職員で取り組む。 ・学習塾への広報活動強化 ・入試相談ウィーク ・ネット出願の導入 ・中学校への出前授業積極的受入れ ・ホームページを用いた迅速な情報発信 ・スポーツ専修コース3クラス編成 ・空手道部への昇格 	<p>「オープンスクール」 「入試説明会」 「塾対象説明会」</p> <p>その他各種説明会の参加人数からの検証</p>	<p>コロナ禍により、予約制を導入。 <オープンスクール> ・第1回 457名（昨年：435名） ・第2回 408名（昨年：386名） ※計 865名（昨年：計 821名） <入試説明会> 今年度は3回実施することができた。 1回目：135組、2回目：124組、3回目：210組（昨年 154組、158組、256組）</p> <p><塾対象説明会> 73塾（昨年 78塾） 外部説明会に参加をしない方針の塾も多く、数値の減少は仕方ないものと考えられるが、さらに魅力的な情報の提供に努める必要がある。</p> <p><入試相談ウィーク> 今年度も12月に実施した。46組（昨年 38組）が参加した。組数は微増した。個別相談形式であるため、きめ細やかな説明ができる。そのため、本校の魅力をより伝えやすく、直接受験につながることも多く、さらに充実させ継続する必要がある。</p> <p><塾訪問> 延べ訪問塾数は1135塾（昨年度は1097塾一昨年度258塾）と増えた。これは専従の担当者1名を配置できたことが大きい。地元の東大阪市・八尾市などを中心に訪塾した。重点塾には管理職が同行した。</p>
		ネット出願について	一昨年度から導入したWEB出願システム“miraicompass”は、定着しつつある。中学校の先生も入試結果を閲覧できるようにした。	◎
		出前授業への対応	中学校への出前授業は6中学8講座。（昨年9中学17講座）	△
		ホームページを用いた情報発信	企画広報部を中心に、学校行事やトピックなど可能な限りリアルタイムでホームページに掲載した。	◎
		アスリート推薦スカウティングについて	アスリート推薦での受験96名（昨年度116名）今年度も90名前後を適正人数目標に渉外活動を行った。	○
		令和6年度入学試験の受験数	出願数 976名（昨年 1134名） ※女子の志願者割合 41.3% 専願 320名（昨年 365名） 併願 656名（昨年 769名） 入学数 363名（昨年 465名） ※女子の入学者割合 37.7% 女子の割合は目標を達成できたが、出願数・入学数ともに昨年より減少しており、各コースの魅力さをさらに伝える工夫をする必要がある。	△

中間的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 ◎-評価 80%以上 ○-評価 60% △-評価 40% ×-評価 20%以下	
□ 教員の 研究・ 研修 構想	<p>[1] 教員の教育力向上 (1) 時間講師も含めて全教員が行う公開授業（研究授業）を継続実施する。見学した教員の事後アンケートを教科担当者にフィードバックすることで、授業内容・方法の向上を図る。 (2) 校内研修会を実施し、教員の教育力向上を図るとともに意識統一を行う。教務部主催の放課後ミニ勉強会や常勤講師対象研修会は継続して実施する。 (3) 外部研究会への積極的な参加を促し、参加後に研修会や教科会で報告し、全体に情報が共有できるようにする。 (4) 学校評価や授業評価の項目をスクールポリシーと連動できるように見直し、実施する。結果を基に授業を分析し、授業改善の指針とする。 (5) 教科会を充実し、教科内での意見交換や止揚の場、教科教育力向上の場として活用する。</p> <p>[2] 教員組織の活性化 (1) 職場の雰囲気は良く、教育目標を共通認識し、教員相互で助け合える組織となりつつあるので、さらに安心して働ける環境づくりを行う。会議等の進め方について研修を行う。 (2) 学校施策や行事を責任の所在を明確にした上で企画・運営していく体制づくりを行い、運営委員会、校務分掌会議、コース運営会議、学年会、教科会などが、機能的に働くようにする。また、目的に沿った総括を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業の実施 	公開授業	年に2回に分けて、全教員が公開授業を行った。事後アンケートを実施し、各教員のスキルアップにつながっている。	○
		<ul style="list-style-type: none"> 校内研修（教務部・保健委員会）の実施 	校内研修	教務部主催の全体研修会は性差や性自認の内容で実施。ミニ勉強会を6回実施。主体的に学び、成績アップのための授業研究会は16名13回実施した（昨年度11名15回）。	○
		<ul style="list-style-type: none"> 外部研究会への積極的参加 高校企画室主催による先進事例視察会の実施 	外部研究会への参加	日本私学教育研究所主催の研修会に延べ6名が参加した。現在の教育の課題や現状、他校の取り組みを知る良い機会となっている。	◎
		<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケート等の活用 	先進事例視察会	今年度は実施していない。	
		<ul style="list-style-type: none"> 教科会の充実 	授業アンケートの実施	2学期中に授業アンケートの実施、レポートの提出を義務付けた。自身の授業を振り返る良い機会だが、未提出の教員も数名いる。	△
		<ul style="list-style-type: none"> 時間講師説明会の実施 	教科会議を通じての教授力向上	新学習指導要領での観点別評価も含めて、評価の方法について、教科内で議論することが多くなっている。同一科目の横並びの打ち合わせの場も多くなっている。	○
		<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領に伴って導入された観点別評価の実施 	時間講師対象の説明会実施	4月初旬と1学期末に、全時間講師対象に学校方針の説明会を実施、理解を得た。	◎
		<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テストの研究 	新学習指導要領への対応	新学習指導要領に伴って導入された観点別評価については、本校独自に作成したエクセルシートを用いて対応した。引き続き、評価方法について研究が必要である。	○
		<ul style="list-style-type: none"> ICT教育充実に向けての準備 	大学入学共通テストの研究および対応	文理進学コースを中心に大学入学共通テストの研究を各教科で行った。本校生徒の平均点も上がっているが、全国平均まではまだ差があるので引き続き研究と指導が必要である。	△
		<ul style="list-style-type: none"> クラブ指導の在り方についての検証 	ICT教室の有効利用	情報の授業をはじめ、各教科、放課後授業、クラブ活動での動画チェックやオンラインミーティングなどで積極的に利用されている。	○
		クラブ指導の在り方について	昨年度より、スポーツ専修コース全学年「スポーツ演習」のコマをクラブ単位で実施した。今後継続していく中で、クラブ指導の在り方について検証できるものと思われる。	○	

中間的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 〔 ◎-評価 80%以上 ○-評価 60% △-評価 40% ×-評価 20%以下 〕	
□ そ の 他	<p>[1] 保護者との連携強化 (1) P T A活動へ教員全体で参画・協力する。 (2) 家庭で学業成績や学校生活の様子を把握してもらうために、1学期および2学期の年2回クラスで三者懇談を実施し、1学期および2学期中間考査後に結果を郵送などで報告する。また、保護者対象に公開授業を実施し、学校・授業の様子を見ていただく機会とする。 (3) さくら連絡網を家庭との連絡の手段として活用する。特に学校からの一方的な連絡に留まらず、欠席連絡やアンケート回収など保護者からの連絡ツールとしても有効利用する。 (4) 就学支援金および授業料支援補助金と授業料との相殺により、家庭の負担軽減に努める。</p> <p>[2] 地域との連携 (1) 新型コロナ感染状況にもよるが、クラブやコースを中心に東大阪市民ふれあい祭りなど地域行事へ参加・協力をする。また、文化祭など本校行事を近隣へ案内し、本校の様子を知っていただく一助とする。 (2) 第三者評価委員会を設けるに当たり、近隣自治会などへ協力依頼を行う。</p> <p>[3] 大阪商業大学附属幼稚園との連携 (1) 本校デザイン美術コースの協力授業を継続して行い、連携を図っていく。 (2) 運動会、避難訓練、夕涼み会など幼稚園行事へ協力する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間試験結果の家庭への通知 ・ 授業公開期間の設定 ・ 三者懇談の実施 ・ 「さくら連絡網」の活用 ・ 地域住民への協力依頼 ・ 学校評価委員会の開催 ・ デザイン美術コースの活動 	中間試験結果の通知	1学期・2学期の中間試験結果を生徒に成績表として渡し、各家庭にその旨をさくら連絡網で通知した。	◎
			授業公開	11月に期間を設けて行っているが、今年度もさくら連絡網を使って配信した。さくら連絡網で配信するようになってから見学者は増加した。	○
			三者懇談	1学期・2学期の年2回クラスで三者懇談を実施することで、家庭で学業成績や学校生活の様子を把握してもらうことができた。	◎
			「さくら連絡網」の活用	年度当初に登録をお願いすることで、ほぼ全家庭に登録していただいた。欠席連絡や長期休みの前後における確認事項や各種行事の連絡など大変有効に活用されている。(学校評価アンケートより：保護者肯定的意見 95% 昨年度 97%)	◎
			ふれあい祭りへの参加	今年度は東大阪市民ふれあい祭りが実施され、デザイン美術コースがちんどん体験を行い、また吹奏楽部も出演した。	◎
			学校評価委員会の開催	学校評価委員会を開催し、様々な意見を聞くことができた。特に、自治会の方、生徒自治会役員の意見は大変参考になった。	◎
			幼稚園との「協力授業」	デザイン美術コース2年生の幼稚園との『協力授業』を実施した。また幼稚園での屋外行事(運動会、夕涼み会など)における本校グラウンドの使用にあたり、体育科およびグラウンド使用各クラブが調整、協力を行った。	◎